

第1回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成26年10月2日(木) 10時00分～11時10分
場 所	市役所本館202会議室
出席者	【委員】永尾英信、中川原達也(嘉村代理)、大枝良直、福澤好展、森 正彦、児嶋二三生、今川泰志、原口 貢、前田 誠、宮菌寛治、早川正史、貫 一字、原田勝子、平田恵美、峯 久子 【事務局】大隈課長、田中係長 松山 小島
報 告	1) ふれあいバス・コミュニティバスの利用状況等について
議 題	1) ふれあいバスの路線・時刻等の見直しについて 2) バス利用者アンケートについて
その他	今後のスケジュール等について

- 1 委嘱状の交付
- 2 委員・事務局自己紹介
- 3 会長・副会長の選任及びあいさつ

前回に引き続き、会長に永尾委員、副会長に大枝委員を選出
(永尾会長)

前回に引き続き、会長をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

前回は、平成25年4月1日からのダイヤ改正に向け、平成24年度にご検討いただき、大きな成果があったと思っています。利用者の実績を見ますとふれあいバスは4.6%増加、コミュニティバスは44.1%増加となっています。この結果を踏まえ、皆さんのご意見をお聞きしながら、より利便性が高く、多くの方からご利用いただける公共交通にしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(大枝副会長)

副会長の大枝と申します。九州大学で主に交通工学、交通計画を専攻しています。

実家が宗像市にあり、毎週末、宗像市に帰ってきているため、宗像市で生活する時間も多々あります。宗像市の生活環境に関しては興味があるところです。コミュニティバスに関しては、平成13年頃から関わってきた経緯があります。当初に比べるとかなりバスの環境は良くなっています。さらに高齢化社会を迎えますので、より良い公共交通環境を作っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

4 地域公共交通会議の役割等について

(事務局)

地域公共交通会議とは、道路運送法に定められた会議。主宰者は市町村、構成員は旅客自動車運送事業者、学識経験者、住民の代表等、道路運送法施行規則第9条の3に基づき、皆様方に就任いただいている。

この会議では、地域のニーズに即した乗合運送サービスの運行形態、路線や使用する車両、料金や運行主体等について協議する。公正、中立な運営を確保して、関係者間のコンセンサスの形成を目指して、十分に協議を行う必要がある。今年度は2年に一度の見直しにあたるので、平成27年度の時刻、路線の改正に向けて、協議をしていく必要がある。各組織や住民の代表として協議いただきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

また、本日は議題のところ、会議で諮る必要がある時刻や路線について協議していく。

5 報告事項

ふれあいバス・コミュニティバスの利用状況等について

(事務局)

平成25年度と平成26年度の比較であるが、大きく時刻、路線の改正を行っていないため、ふれあいバス、コミュニティバスともに大きな差はない。コミュニティバスは、赤間地区が平成26年度からの新路線であるため、平成25年度との比較はない。バス全体の利用者数としては、コミュニティバスは赤間地区の新路線追加により利用者数は増加している。

運行事業者に対する補助金額については、平成25年4月から8月までで11,015,266円、今年度同時期は12,157,288円と増加している。コミュニティバスについては、平成25年4月から8月までで17,211,549円、今年度同時期は20,497,785円と、赤間コミバスが追加になったことにより、増加していると考えられる。

(永尾会長)

平成25年度、平成26年度を比較すると、今年の8月は気候が悪く、利用者数が減っているが、今年度から新たに追加になった赤間コミバスは4月に598人、以降は右肩上がりとなっている。その他の地区でも、概ね昨年度の利用者数を上回る利用状況となっている。ふれあいバスも好調な運行が続いている。

ふれあいバスの補助金額は、昨年度、約2,600万円補填している。また、コミュニティバスの補助金額は、約4,050万円補填している。したがって、併せると毎年約6,600万円以上、バス運行のために赤字補填をしている。

6 議題

1) ふれあいバスの路線・時刻等の見直しについて

(事務局)

ふれあいバスの路線等の検討について、昨年度の利用者数が路線全体の1%未満のバス停を廃止するバス停の候補としている。また、新設するバス停は各地域から要望があった箇所を候補としている。

第1系統について説明する。廃止候補は「赤間西コミセン前」、「三郎丸公民館前」、「須賀浦交差点」、「くりえいと3丁目」、新設候補は三郎丸団地から強い要望があった、西鉄バスの「陵厳寺」バス停と同じ場所である。

第2、3系統について説明する。廃止候補は「日の里9丁目」、「大井台入口」、「用山」、「東郷コミセン」、新設候補は特養むなかたからの要望や、用山のバス停で転回しており危険性を回避するため、特養むなかたへの延伸を考えている。以前、ふれあいバスのバス停があった「田熊」は利用者がのぞまれるとご意見をいただいたため、新設を検討している。また、日の里コミュニティから要望があり「日の里コミセン入口」の新設を検討している。

廃止バス停の候補を挙げたが、西鉄バスと時刻等の協議を重ね、廃止候補のバス停すべて、廃止しても時刻、路線が変わらないため、今回は廃止しない方向で進めたい。

東郷コミュニティから跨線橋付近に新設の要望があったが、路線として安定してきていることから、今回は見送り、今後は改正した方が良いような要望や需要があった際に検討していきたい。平井から団地内への新設の要望があったが、道路の幅員や勾配の関係でバスが運行できない。大井からバス停新設の要望があったが、既存の西鉄バスの路線を基点にすることから新設は難しい。

路線について説明する。「陵厳寺」は西鉄バス「陵厳寺」バス停と同じ場所に新設する。「田熊」は旧三号線沿いの西鉄バス「田熊」バス停と同じ場所に新設する。「特養むなかた」は用山から延伸し、特養むなかたの敷地内に新設する。「日の里コミセン入口」はサニーを回るような形で提案する。

時刻について説明する。多くの利用者からの要望があった、ユリックスやメイトムでの講座が始まる10時より前に到着するような形で検討している。

第1系統はバス停を新設するが、西鉄バスに確認したところ、時刻を変更せずに運行可能とのことにより変更しない。第2系統は「日の里コミセン入口」と「特養むなかた」に延伸することになるため、時刻も延長になる。しかし、ゆめタウンから赤間駅南口間や、宮田橋（セントラル前）から森林都市（岩田屋前）間で現在4分設けているが3分で運行可能とのことにより、現在の運行に必要な時間は変更なしで提案する。

第3系統についても、第2系統と同じく、運行に必要な時間は変更なしで提案する。

最後に運賃、料金について確認する。一般の方は運賃200円、70歳以上の方やお子さんについては半額の100円、また往復料金で一日利用できる1日乗車券も販売している。その他、回数券、定期券もある。運休日は第1・3・5日曜日、12月31日から1月3日までの年末年始としたいと考えている。

(永尾会長)

忌憚ない意見をいただきたい。第1系統について意見はあるか。

(平田委員)

くりえいと3丁目のバス停は、新たに商業施設が開店したことにより利用が増えると考えられるため、提案のとおり、廃止しないで欲しい。

(嘉村代理)

バス停から自宅までの距離が500メートル以内であれば、不便な地域ではないという基準がある。「赤間西コミセン前」、「三郎丸公民館前」、「須賀浦交差点」バス停を廃止した場合に、近接しているバス停があるため、代わりとなるバス停はあると思うが、検討しているか。

(事務局)

「赤間西コミセン」と「三郎丸公民館前」については、前回の改正時も利用者が全体の1%未満であったため、コミュニティにどちらか一方の廃止を検討いただいたところだが、今回についても時刻を変えずに運行可能であるため、廃止はしない。今後廃止する際には、影響を考えながら検討していきたい。

(永尾会長)

第2、3系統について意見はあるか。

(今川会長)

新設候補の「日の里コミセン入口」については、日の里コミセンから少し離れたところに設置となっているが、商業施設の出入り口の関係等で、資料で示している箇所が最も近い場所ということ間違いはないか。

(事務局)

日の里コミュニティに近い場所へのバス停の設置と要望をいただいたが、宗像警察署との協議を重ね、現在示している位置が設置可能な最も近い場所となっている。

(嘉村代理)

起点から終点まで乗車する方はいないと思うが、例えば第1系統は起点から終点までは45分で設定されている。しかし、第2、3系統は2時間弱で設定されている。時間が掛かり過ぎるとい意見はないか。

(事務局)

過去に第2、第3系統を赤間駅と自由ヶ丘側、日の里側という短い路線にし、目的地までは乗り継いで行っていただく形をとったが、多くの高齢者から、時間が掛かっても良いから乗り換えをしたくないという意見をいただき、現在の路線となっている。

時間が掛かることについては、特段、苦情はない。

(永尾会長)

続いてバスの時刻については、ほぼ変わらないため、改めての確認は良いか。

(委員)

良い。

(永尾会長)

ふれあいバス、コミュニティバスの運賃、料金について質問はあるか。

(委員)

なし。

2) バス利用者アンケートについて

(事務局)

昨年度と同様、利用者へのアンケート調査を実施する。ふれあいバスについては、調査員をバスに乗車させて実施する聞き取り調査とアンケート用紙をバス内に設置し、回収する調査を実施する。コミュニティバスについては、調査員を乗車させると乗車可能な人数がさらに減るため、アンケート用紙をバス内に設置し、回収する調査のみ実施する。

アンケートの内容は、利用者の属性やニーズを把握するものとなっている。経年での比較になるため、昨年度とほぼ同じ項目で調査をする。ただし、昨年度末に実施したバスの無料乗車キャンペーンと商業施設と連携したキャンペーンについての項目を設ける。

(嘉村代理)

利用していない方を対象としたアンケートの実施はしないのか。

(事務局)

利用していない方を抽出することが難しい。5年程前に赤間駅やサンリブで調査員に聞き取り調査をさせた。利用しない理由の大多数が、「自家用車がある」、「送迎してくれる人がいる」であった。今の路線から考えても、ある程度、離れたところまで運行しているため、利用したいが利用できないという方はいないと考えている。

(永尾会長)

コミュニティバスについては、地域の方に時刻、路線について検討いただいているため、利用したい方の意見については、反映されていると考えられる。

7 その他

今後のスケジュール等について

次回開催日 平成26年10月31日(金) 13:00～ 場所については後日連絡。